

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第一小学校

学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

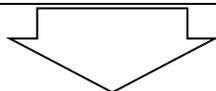
- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律と基本的生活習慣の定着

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く力に課題がある。(4年 -9p、5年 -7p) ・読解では、文章の記述をもとに筆者の考えや登場人物の心情や場面の様子を読み取ることが苦手である。(4年 +0.5p、5年 +3.8p、6年 +1.7p) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く目的や構成を意識できていない。 ・段落ごとの内容を要約したり、文章の要旨をとらえたりできない。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の理解が不十分な児童がいる。(4年 +1p、6年 -3.3p) ・時間や時刻の単位換算や概数の理解が不十分な児童が多い。(4年 +3.8p、5年 +0.6p) ・筋道を立てて考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算、単位換算、概数の習熟が不十分である。 ・図や言葉で表現した考えを他の児童に説明するなどの機会が少なかったり、表現することが苦手だったりする児童がいる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象についての理解が不十分である。(4年 +1.7p、5年 -8.2p、6年 -17.2p) ・図や表などから必要な情報を読み取ることが苦手な児童が多い。(5年 -8.7p、6年 -10p) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会事象を関連付けてまとめる活動が十分にできていない。 ・様々な資料を読み取り、分かったことについて考察する活動が十分にできていない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察のポイントの理解が不十分で、課題に合わせて実験・観察方法を考えることが苦手な児童が多い。 ・結果を整理し、論理的にまとめることが、苦手な児童がいる。(4年 -11p、5年 -9.5p、6年 -8.3p) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と結びつけて課題を解決する経験が少ない。 ・まとめは課題に正対したものであることを十分に理解していない。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・単語の意味・理解では、身近な単語の理解に課題がある。(-5p) ・日常会話を聞いて、その目的や場面・状況などを理解することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復して学習する時間を十分に取れていない。 ・自分のことについて話すことが恥ずかしいと思う児童がいる。

体育	・体力調査の結果から、学年によるばらつきはあるが、握力、ソフトボール投げの結果が、全国平均を下回っている。	・普段の遊びの中での運動経験の差が体力調査の結果の差につながっている。また、個人差が大きい。
----	---	--

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	月一スタンダードである学習規律(チャイム着席、学習用具、授業終始のあいさつ、姿勢)を徹底し、全児童が学習の構えを身に付ける。放課後の学習教室(スタディ月一)で補習教室を実施し、個別指導を通し、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。読書活動を行い、本に親しむようにする。
② 授業改善	板書計画やノート指導を徹底し、学習活動、形態を工夫し、問題解決的な学習を各単元で必ず行う。タブレット端末を積極的に活用する。
③ 教員の指導力	統一した指導スタイル(めあて、見通し、自力解決、比較検討、まとめ)で授業を行う。また、教員の指導力向上のための校内研修を年間3回以上行う。
④ 家庭との連携	「家庭学習の手引き」を配布し、自学、自習の内容を充実させる。宿題の提出率を9割以上にし、家庭学習の習慣を身に付ける。
⑤ 体力向上	「マイスクールスポーツ」(縄跳び・持久走)や、ボルダリングに年間を通じて取り組ませる。それらを通じて持久力や巧みな動きを身に付けるとともに体力の向上に努める。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 学力基盤	
取組Ⅰ	学校で統一した持ち物の確認を行い、持ち物への記名と、前日に学習道具を自分で準備する習慣付けをして忘れ物をしないように家庭と協力して指導する。授業開始と終了が意識できるようにあいさつの指導をする。聞き方名人「あいいうえお」、話し方名人「かきくけこ」を各教室に掲示し、意識付けと定着を図る。
取組Ⅱ	会議のない放課後に補習教室「スタディ月一」の時間を設定する。学習している内容の復習や東京ベーシックドリルなどを中心に担任や算数少人数担当の教員が個別指導や少人数指導を行い、基礎・基本の学力の定着を図る。
取組Ⅲ	週1回以上の朝読書の時間を設定し、年3回の読書週間とともに、本に親しめるようにする。

②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や解説、教科書、指導書、以前の実践を参考に、児童の実態に合った授業プランを構成し、児童が意欲的に取り組める授業にする。また、発問や学習形態を踏まえた板書計画を立て、ノートを定期的に点検し、自らの思考の流れがわかるようなノート作りができるように指導していく。
取組Ⅱ	授業後に授業の構成を見直し、児童の授業中の反応、提出物、テスト等の結果分析を行い、児童に「何が身に付いたか」を振り返る。必要に応じて、習熟する時間を多く取るようにする。
取組Ⅲ	児童の学習意欲が高まるような学習問題の開発、話し合い活動の導入、教材・教具の工夫を行い、年度末には「授業が楽しい」と感じる児童の割合が8割以上になるようにする。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	年間指導計画を基に単元を見通した授業計画を立て、毎時間のねらい、中心となる学習活動を明確にし、授業実践をする。
取組Ⅱ	発問の工夫や、ノート指導により児童がめあてをもって学習活動を行い、「分かった」「できた」という満足感や達成感を味わわせる。
取組Ⅲ	ベテラン教諭を講師として授業の指導法や、児童理解の方法の研修を行い、児童が充実感を味わう指導が行えるようにする。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	学年便りや学級便り、連絡帳を通し、学習状況に関する情報を発信し、学習用具の準備、宿題への取り組み等、児童の学習に臨む姿勢を整える。
取組Ⅱ	「家庭学習の手引き」を配布し、「学年×10分+α」を目安に家庭学習への習慣付けを行う。宿題、さらに自学へと学習に取り組む意欲を育てる。
取組Ⅲ	学校便りや保護者会、個人面談などを通して児童の様子や、学校での取り組みを保護者に伝える。また、保護者が教員やスクールカウンセラーなどに相談しやすいようにし、児童を共に育てる環境づくりをする。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	発達段階に合わせた運動や運動遊びを通して、自己の課題をもたせ、友達と関わりながら、体の動きを高められるようにする。固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れる。
取組Ⅱ	「マイスクールスポーツ」を通じて持久力や巧みな動きを身に付ける。ボールを投げる場面を増やし、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識させる。

取組Ⅲ	ボルダリングに登ることを通して体力と思考力を身に付け、自分の限界に挑戦したり、課題を克服したりする楽しさを味わう。
-----	---



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、週予定表の配布をすることで児童は持ち物の確認ができ、忘れ物に気を付けさせることができた。 ・学習規律については徹底して指導を行ってきた。特に授業開始と終了のあいさつをしっかりと行うことができ、はじめが付けられた。 ・朝読書を行ったことで児童は本に親しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後補習教室を行ってきたが、年度末は新型コロナウイルス関係の欠席者が多く、定着を図っていくのが難しい面があった。日々の授業はもちろんのこと、いろいろな場面で指導法を工夫し、学力を定着させていきたい。 ・チャイム着席、学習の準備ができていない児童もいる。引き続き指導していく。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・板書計画や発問を工夫したり、タブレット端末を活用したりして、児童が意欲的に取り組める授業にしてきた。授業を楽しんでいる児童は多い。 ・ノートを定期的に点検することで、授業内容を分析したり児童の理解把握をしたりすることができ、学習理解を確実にさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を必要とする児童への指導が十分ではなかった。個別指導を多く取り入れる等、環境を整えていく必要がある。 ・ノートをとることが苦手な児童への手だてを考えていく必要がある。 ・さらに学習問題の開発や教材・教具の工夫をし、児童の意欲を高めたり理解を深めさせたりしていきたい。
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を見通した授業計画を立てて行ってきた。毎時間のねらい、中心となる学習活動を明確にして授業実践をした。 ・毎時間のめあてを確認したり、発問を工夫したりすることで児童は見通しをもって考えたりまとめたりすることができ、児童の達成感や満足感につながった。 ・学年の教員同士で学び合ったり、教員同士の研修を行ったりしたことで、指導力の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲をもって学習していける指導の工夫をさらにしていく。 ・教員同士の授業参観が少なかった。若手研修はあったが、自主的に研修を行うなど教員同士が直接学ぶという努力を重ねていきたい。
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、週予定表を配布することで、学習用具の準備や宿題への取組を確認させることができた。また、学校の様子を発信し、少しでも家庭に伝わるようにした。 ・気になることは、すぐに家庭に連絡し、連携して取り組むことができた。 ・宿題忘れは少なかった。(提出率9割以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる児童の様子を伝えてきたが、保護者側の受け取り方に違いがあった。連絡の仕方を考えていきたい。 ・宿題の取組をしていくことが難しい家庭があった。さらに家庭と連携しながら取り組んでいきたい。また、自主学習の取組への意欲を育てていきたい。

⑤ 体力向上

- ・発達段階に合わせた運動や運動遊びを通して、体の動きを高められるようにした。また、カードを用いて達成感が分かるようにした。
- ・「マイスクールスポーツ」であるなわとびや持久走を行うことで、持久力や巧みな動きを身に付けられるようにした。
- ・意欲を高めるための声かけはもちろん、技能の向上に効果的な声かけも指導していきたい。
- ・ボルダリングの活用がコロナ禍のためあまりできなかった。
- ・「投げる力」を指導していく場の設定が難しかった。
- ・多様な運動経験をさせる機会を考えていく必要がある